体外診断用医薬品

自己認証番号 25A2X00001000006
日本標準商品分類番号 877439

ITEM CODE: 09
** 2009年 6月改訂
* 2008年11月改訂

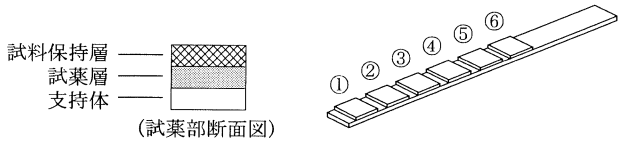
使用の前に本添付文書をよくお読みください。

クラスⅠ血液・生化学検査用シリーズ 80028001

スポットケム™Ⅱ 検診－2 [KENSHIN-2]

【全般的な注意】
本品は、体外診断用でありそれ以外の目的に使用しないでください。
診断は、他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて、総合的に判断してください。
添付文書に記載された使用方法および使用目的以外での使用については、保証致しません。
使用する機器の添付文書および取扱説明書にしたがって使用してください。

*【形状・構造等(キットの構成)】
本品はストリップ状であり、その試薬部分は試料保持層、試薬層、支持体からなる多層構造をしています。



(試薬部断面図)

①GPT(グルタミック・ピルビック・トランスアミナーゼ)
②GOT(グルタミック・オキザロアセティック・トランスアミナーゼ)
③GGT(γ-GTP：γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)
④トリグリセライド
⑤総コレステロール
⑥HDL-コレステロール

本品は100枚中に下記の成分を含有します。
＜GPT(アラニンアミノトランスフェラーゼキット)＞
L-アラニン……10 mg
α-ケトグルタル酸……1.6 mg
ピルビン酸オキシダーゼ(POP)……217 単位
4-アミノアンチピリン……0.48 mg
3,5-ジメトキシ-N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)アニリン・ナトリウム(DAOS)……0.51 mg
ペルオキシダーゼ(POD)……73 単位
チアミンピロリン酸(TPP)
塩化マグネシウム
＜GOT(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼキット)＞
L-アスパラギン酸ナトリウム……20 mg
α-ケトグルタル酸……1.6 mg
オキザロ酢酸脱炭酸酵素(OAC)……107 単位
ピルビン酸オキシダーゼ(POP)……217 単位
4-アミノアンチピリン……0.64 mg
3,5-ジメトキシ-N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)アニリン・ナトリウム(DAOS)……1.08 mg
ペルオキシダーゼ(POD)……73 単位
チアミンピロリン酸(TPP)
塩化マグネシウム
＜GGT(血液検査用ガンマーグルタミルトランスペプチダーゼキット)＞
L-γ-グルタミル-p-ニトロアニリド……4.3 mg
グリシルグリシン……9.25 mg
＜トリグリセライド(トリグリセライドキット)＞
リポプロテインリパーゼ(LPL)……106 単位
グリセロールキナーゼ……7.5 単位
グリセロール-3-リン酸オキシダーゼ……32.0 単位
4-アミノアンチピリン……0.7 mg
3,5-ジメトキシ-N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)アニリン・ナトリウム(DAOS)……1.2 mg
ペルオキシダーゼ(POD)……25.0 単位
アデノシン-5'-3リン酸2ナトリウム(略名ATP)……6.0 mg
界面活性剤
＜総コレステロール(コレステロールキット)＞
コレステロールオキシダーゼ(COD)……82 単位
4-アミノアンチピリン……3.2 mg
3,5-ジメトキシ-N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)アニリン・ナトリウム(DAOS)……6.4 mg
ペルオキシダーゼ(POD)……266 単位
コレステロールエステラーゼ(CE)
界面活性剤
＜HDL-コレステロール(HDL-コレステロールキット)＞
コレステロールエステラーゼ(CE)……24 単位
コレステロールオキシダーゼ(COD)……14 単位
4-アミノアンチピリン……4.6 mg
3,5-ジメトキシ-N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)アニリン・ナトリウム(DAOS)……9.2 mg
ペルオキシダーゼ(POD)……382 単位

【使用目的】
血清または血漿中のGPT、GOT、γ-GTP、トリグリセライド、総コレステロール、HDL-コレステロールの測定

*【測定原理】
試薬部分に試料(血清、血漿)が一定量点着されると、試料はまず試料保持層全面に均一に展延します。展延した試料は、試薬層に到達し、これを溶解し反応が進行します。反応が進行しながら試薬層は完全に溶解して試料保持層に吸収され、両者は一体となって検出層を形成します。この検出層で生成された呈色物質を比色定量します。

＜GPT＞
試料中のGPTは、L-アラニンのアミノ基をα-ケトグルタル酸に転移し、L-グルタミン酸とピルビン酸を生成します。このピルビン酸はマグネシウムイオンとチアミンピロリン酸の存在下でピルビン酸オキシダーゼの触媒作用によって、酸化されて過酸化水素を生成します[1]。生じた過酸化水素はペルオキシダーゼの触媒作用によって、4-アミノアンチピリン、DAOSを酸化縮合して、青色の呈色物質を生成します。この呈色物質を比色定量します。

$$\text{L-アラニン} + \alpha\text{-ケトグルタル酸} \xrightarrow{\text{GPT}} \text{L-グルタミン酸} + \text{ピルビン酸}$$

$$\text{ピルビン酸} + \text{リン酸} + O_2 \xrightarrow[Mg^{2+}]{\text{POP、TPP}} \text{アセチルリン酸} + H_2O_2 + CO_2$$

$$H_2O_2 + \text{4-アミノアンチピリン} + \text{DAOS} \xrightarrow{\text{POD}} \text{青色色素(610 nmで測光)} + H_2O$$

＜GOT＞
試料中のGOTは、L-アスパラギン酸のアミノ基をα-ケトグルタル酸に転移し、L-グルタミン酸とオキザロ酢酸を生成します。オキザロ酢酸はオキザロ酢酸脱炭酸酵素によってピルビン酸を生じ、このピルビン酸はマグネシウムイオンとチアミンピロリン酸の存在下でピルビン酸オキシダーゼの触媒作用によって、酸化されて過酸化水素を生成します[1]。生じた過酸化水素はペルオキシダーゼの触媒作用によって、4-アミノアンチピリン、DAOSを酸化縮合して、青色の呈色物質を生成します。この呈色物質を比色定量します。

$$\text{L-アスパラギン酸} + \alpha\text{-ケトグルタル酸} \xrightarrow{\text{GOT}} \text{L-グルタミン酸} + \text{オキザロ酢酸}$$

$$\text{オキザロ酢酸} \xrightarrow{\text{OAC}} \text{ピルビン酸} + CO_2$$

$$\text{ピルビン酸} + \text{リン酸} + O_2 \xrightarrow[Mg^{2+}]{\text{POP、TPP}} \text{アセチルリン酸} + H_2O_2 + CO_2$$

$$H_2O_2 + \text{4-アミノアンチピリン} + \text{DAOS} \xrightarrow{\text{POD}} \text{青色色素(610 nmで測光)} + H_2O$$

＜GGT＞
試料中のγ-GTPは基質であるL-γ-グルタミル-p-ニトロアニリド(G-pNA)に作用し、γ-グルタミル基をグリシルグリシンに転移します。このときγ-グルタミルグリシルグリシンを生成すると同時に黄色のp-ニトロアニリン(pNA)を遊離します[2),3)]。この呈色物質を比色定量します。

$$\text{G-pNA} + \text{グリシルグリシン} \xrightarrow{\gamma\text{-GTP}} \gamma\text{-グルタミルグリシルグリシン} + \text{pNA(405 nmで測光)}$$

＜トリグリセライド＞
試料中のトリグリセライドは、リポプロテインリパーゼによって加水分解されてグリセロールになります。グリセロールはATPの存在下でグリセロールキナーゼの作用によりグリセロール-3-リン酸を生じ、このグリセロール-3-リン酸はグリセロール-3-リン酸オキシダーゼの触媒作用により酸化されて過酸化水素を生成します[4),5),6),7)]。生じた過酸化水素は、ペルオキシダーゼの触媒作用によって4-アミノアンチピリン、DAOSを酸化縮合して、青色の呈色物質を生成します。この呈色物質を比色定量します。

$$\text{リポ蛋白} \xrightarrow{\text{界面活性剤}} \text{トリグリセライド} + \text{蛋白質}$$

$$\text{トリグリセライド} + H_2O \xrightarrow{\text{LPL}} \text{グリセロール} + \text{脂肪酸}$$

$$\text{グリセロール} + \text{ATP} \xrightarrow{\text{グリセロールキナーゼ}} \text{グリセロール-3-リン酸} + \text{ADP}$$

$$\text{グリセロール-3-リン酸} + O_2 \xrightarrow{\text{グリセロール-3-リン酸オキシダーゼ}} \text{ジヒドロキシアセトンリン酸} + H_2O_2$$

$$H_2O_2 + \text{4-アミノアンチピリン} + \text{DAOS} \xrightarrow{\text{POD}} \text{青色色素(610 nmで測光)} + H_2O$$

＜総コレステロール＞
試料中のリポ蛋白は界面活性剤によってコレステロールエステルに分解され、コレステロールエステラーゼの作用によってコレステロールに加水分解されます。このコレステロールはコレステロールオキシダーゼの触媒作用によって、特異的に酸化されてコレスト-4-エン-3-オンと過酸化水素を生成します。生じた過酸化水素はペルオキシダーゼの触媒作用によって、4-アミノアンチピリン、DAOSを酸化縮合して、青色の呈色物質を生成します。この呈色物質を比色定量します。

$$\text{リポ蛋白} \xrightarrow{\text{界面活性剤}} \text{コレステロールエステル} + \text{蛋白質}$$

$$\text{コレステロールエステル} + H_2O \xrightarrow{\text{CE}} \text{コレステロール} + \text{脂肪酸}$$

$$\text{コレステロール} + O_2 \xrightarrow{\text{COD}} \text{コレスト-4-エン-3-オン} + H_2O_2$$

$$H_2O_2 + \text{4-アミノアンチピリン} + \text{DAOS} \xrightarrow{\text{POD}} \text{青色色素(610 nmで測光)} + H_2O$$

＜HDL-コレステロール＞
試料が試薬部分に一定量点着されると、試料はまず試料保持層全面に均一に展延します。展延した試料は、HDLとHDL以外のリポ蛋白(LDL、VLDL、カイロミクロン)に対して異なる作用を示す界面活性剤により、HDLが選択的に可溶化されます。
可溶化されたHDL中のコレステロールエステルは、コレステロールエステラーゼの作用により遊離型コレステロールとなります。この遊離型コレステロールは、コレステロールオキシダーゼの作用によって特異的に酸化され、コレスト-4-エン-3-オンと過酸化水素を生成します。このとき生じた過酸化水素は、ペルオキシダーゼによって、クロモーゲン指示薬[4-アミノアンチピリン、3,5-ジメトキシ-N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)アニリン・ナトリウム塩]を酸化縮合して青色の呈色物質を生成します。
これらの反応が進行しながら試薬層は完全に溶解して試料保持層に吸収され、両者は一体となって検出層を形成します。この呈色物質を比色定量します。

$$\text{HDL} \xrightarrow{\text{界面活性剤}} \text{HDL(可溶化)}$$

$$\text{HDL-コレステロールエステル} + H_2O \xrightarrow{\text{CE}} \text{遊離型コレステロール} + \text{脂肪酸}$$

$$\text{遊離型コレステロール} + O_2 \xrightarrow{\text{COD}} \text{コレスト-4-エン-3-オン} + H_2O_2$$

$$H_2O_2 + \text{クロモーゲン指示薬} \xrightarrow{\text{POD}} \text{キノン型酸化色素(610 nmで測光)} + H_2O$$

**【操作上の注意】

＜測定試料の性質＞

1. 採血時の抗凝固剤はヘパリンをもちいるようにしてください。フッ化ナトリウム、モノヨード酢酸およびEDTAを含む試料は、特に酵素検査項目等で負の誤差を与えることがありますのでご注意ください。BUN、T-Bil、Alb、無機リンなど酸性緩衝剤を含む試薬では、フッ化ナトリウムやフッ化アンモニウムを添加された試料は測定できません。フッ化水素を発生し、専用測定機（ＳＰ－４４１０、ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０）に重大な損傷を与えます。
2. 血清、血漿以外のものを測定しないでください。
3. 試料は蒸発防止のためフタつきの容器に入れてください。
4. 冷蔵した試料をもちいる場合は、室温にもどしてから測定してください。
5. 試料に血清をもちいる場合は、血清分離に先立ち血液が十分に凝固していることを確認するとともに、測定機にセットする際に浮遊するフィブリンを除去してください。ノズルの詰まりをひきおこし、それ以降の測定結果に悪影響を及ぼすことがあります。
6. 試料中に気泡が入っている場合は、測定前に必ず気泡を取り除いてから測定してください。異常値を示したり、測定不能の原因となります。
7. 精製水や生理食塩水で、血清、血漿を希釈すると理論値から乖離する場合があります。

＜妨害物質＞

1. GPT
   本品は、ビリルビン(10 mg/dL以上)およびアスコルビン酸(10 mg/dL以上)を含む試料では負の誤差を生じることがあります。
   溶血した試料では正の誤差を生じることがあります。
   血漿を試料としてもちいる場合、抗凝固剤として使用されるヘパリンは通常の使用量において影響ありません。
   GPT活性は、徐々に低下する傾向にあります。
2. GOT
   本品は、ビリルビンの影響はほとんどありません。
   アスコルビン酸(10 mg/dL以上)を含む試料では負の誤差を生じることがあります。
   溶血した試料では正の誤差を生じることがあります。
   血漿を試料としてもちいる場合、抗凝固剤として使用されるヘパリンは通常の使用量において影響ありません。
   GOT活性は、徐々に低下する傾向にあります。
3. GGT
   本品は、ビリルビン(10 mg/dL以上)を含む試料では正の誤差を生じることがあります。
   溶血した試料では正の誤差を生じることがあります。
   血漿を試料としてもちいる場合、抗凝固剤として使用されるヘパリンは通常の使用量において影響ありません。
4. トリグリセライド
   本品は、アスコルビン酸および溶血の影響はほとんどありません。
   ビリルビンを含む試料では、負の誤差を生じることがあります。
   血漿を試料としてもちいる場合、抗凝固剤として使用されるヘパリンは通常の使用量において影響ありません。
   フッ化ナトリウムは、負の誤差を生じることがあります。
   本品は、遊離グリセロールの消去は行っておりません。
   点滴などにより遊離グリセロールの影響を受けますので、グリセロールを投与している場合は使用しないでください。

5. 総コレステロール
本品はビリルビンおよび溶血の影響はほとんどありません。
アスコルビン酸(10 mg/dL以上)を含む試料では負の誤差を生じます。
血漿を試料としてもちいる場合、抗凝固剤として使用されるヘパリンは通常の使用量において影響ありません。
6. HDL-コレステロール
本品は、アスコルビン酸の影響はほとんどありません。
ビリルビン及び溶血検体では、負の誤差を生じることがあります。
蛋白低値検体では正の誤差、高値検体では負の誤差を生じることがあります。
フッ化ナトリウムは、負の誤差を生じることがあります。
トリグリセライド500 mg/dL以上の検体では、高値に測定されることがあります。
血漿を試料としてもちいる場合、抗凝固剤として使用されるヘパリンは通常の使用量において影響ありません。

【用法・用量(操作方法)】

専用測定機(ＳＰ－４４１０、ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)の取扱説明書にしたがって、本品と試料を準備の上、測定操作を行います。誤った測定操作は正しい測定値が得られないのみならず測定機を破損させる原因となりますのでご注意ください。
本品をアルミパックより取り出す際には、以下の点に留意してください。
・折れ曲がったり、試薬部がストリップより剥離しないように、本品に無理な力を加えずに丁寧に取り扱ってください。
・アルミパックを開封した後は、放置せずにすぐに使用してください。
＜試薬カードについて＞
1. 試薬カードは専用測定機**(ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)**に使用してください。
2. **本品をご使用の際には、必ず同封の試薬カードを専用測定機(ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)に読み込ませてください。**引き続き同一ロットの試薬をご使用の際には、この操作は必要ありません。
3. 試薬カードは専用測定機**(ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)**の取扱説明書にしたがって使用してください。
＜キャリブレーションについて＞
1. **ＳＰ－４４１０**をご使用の場合
キャリブレーションはスポットケム専用のキャリブレータLow、Highを使用してください。詳細については専用測定機(ＳＰ－４４１０)の取扱説明書およびキャリブレータの添付文書にしたがってください。
2. **ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０**をご使用の場合
同封の試薬カードを専用測定機(ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)に読み込ませることによってキャリブレーションは完了します。キャリブレーションの詳細については、専用測定機(ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)の取扱説明書にしたがってください。

＊【測定結果の判定法】

＜参考基準範囲＞[8)]

・GPT	4～44 IU/L
・GOT	7～38 IU/L
・GGT	男：9～40 IU/L
	女：9～35 IU/L
・総コレステロール	130～219 mg/dL
・HDL-コレステロール	男：37～67 mg/dL
	女：40～71 mg/dL

＜高トリグリセライド血症の診断基準＞[9)]
・トリグリセライド　空腹時：150 mg/dL以上
基準範囲は種々の条件下、各検査室により変動する可能性がありますので、各施設にて適した値を設定してください。

【性能】

1.性能
＜感度＞
・GPT
1. 0濃度検査液(7%BSA/(0.02 mol/Lリン酸三ナトリウム水溶液))を6回同時に測定するとき、測定値は全て10 IU/L未満を示します。[注1)]
2. 既知濃度(34 IU/L)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て26～42 IU/Lを示します。
3. 既知濃度(450 IU/L)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て342～558 IU/Lを示します。
注1) 0濃度検査液での10 IU/Lとは、専用測定機をもちいたシステムでの最小検出値(測定レンジ下限)を示し、この最小検出値未満の測定値は「10　IU/L未満」と表示されます。
・GOT
1. 0濃度検査液(7%BSA/(0.02 mol/Lリン酸三ナトリウム水溶液))を6回同時に測定するとき、測定値は全て10 IU/L未満を示します。[注1)]
2. 既知濃度(34 IU/L)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て26～42 IU/Lを示します。
3. 既知濃度(450 IU/L)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て342～558 IU/Lを示します。
注1) 0濃度検査液での10 IU/Lとは、専用測定機をもちいたシステムでの最小検出値(測定レンジ下限)を示し、この最小検出値未満の測定値は「10　IU/L未満」と表示されます。
・GGT
1. 0濃度検査液(精製水)を6回同時に測定するとき、測定値は全て10 IU/L未満を示します。[注1)]
2. 既知濃度(50 IU/L)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て38～62 IU/Lを示します。
3. 既知濃度(385 IU/L)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て293～477 IU/Lを示します。
注1) 0濃度検査液での10 IU/Lとは、専用測定機をもちいたシステムでの最小検出値(測定レンジ下限)を示し、この最小検出値未満の測定値は「10　IU/L未満」と表示されます。
・トリグリセライド
1. 0濃度検査液(7%BSA/(0.02 mol/Lリン酸三ナトリウム水溶液))を6回同時に測定するとき、測定値は全て25　mg/dL未満を示します。[注1)]
2. 既知濃度(85 mg/dL)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て72～98 mg/dLを示します。
3. 既知濃度(300 mg/dL)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て255～345 mg/dLを示します。
注1) 0濃度検査液での25 mg/dLとは、専用測定機をもちいたシステムでの最小検出値(測定レンジ下限)を示し、この最小検出値未満の測定値は「25 mg/dL未満」と表示されます。
・総コレステロール
1. 0濃度検査液(7%BSA/(0.02 mol/Lリン酸三ナトリウム水溶液))を6回同時に測定するとき、測定値は全て50　mg/dL未満を示します。[注1)]
2. 既知濃度(120 mg/dL)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て102～138 mg/dLを示します。
3. 既知濃度(155 mg/dL)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て132～178 mg/dLを示します。
注1) 0濃度検査液での50 mg/dLとは、専用測定機をもちいたシステムでの最小検出値(測定レンジ下限)を示し、この最小検出値未満の測定値は「50 mg/dL未満」と表示されます。
・HDL-コレステロール
1. 0濃度検査液(精製水)を6回同時に測定するとき、測定値は全て10 mg/dL未満を示します。[注1)]
2. 既知濃度(60 mg/dL)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て45～75 mg/dLを示します。
3. 既知濃度(30 mg/dL)の管理血清を15回同時に測定するとき、測定値は全て23～38 mg/dLを示します。
注1) 0濃度検査液での10 mg/dLとは、専用測定機をもちいたシステムでの最小検出値(測定レンジ下限)を示し、この最小検出値未満の測定値は「10 mg/dL未満」と表示されます。
＜特異性＞
・GPT
既知濃度(低濃度および中濃度)の血清を測定するとき、測定値は既知濃度の±25%以内にあります。
・GOT
既知濃度(低濃度および中濃度)の血清を測定するとき、測定値は既知濃度の±25%以内にあります。
・GGT
既知濃度(低濃度および中濃度)の血清を測定するとき、測定値は既知濃度の±25%以内にあります。
・トリグリセライド
既知濃度(低濃度および中濃度)の血清を測定するとき、測定値は既知濃度の±15%以内にあります。
・総コレステロール
既知濃度(低濃度および中濃度)の血清を測定するとき、測定値は既知濃度の±15%以内にあります。

・HDL-コレステロール
既知濃度(低濃度および中濃度)の血清を測定するとき、測定値は既知濃度の±25%以内にあります。

＜同時再現性＞
・GPT
プール血清を15回同時に測定するとき、測定値のCV値は8%以内です。
・GOT
プール血清を15回同時に測定するとき、測定値のCV値は8%以内です。
・GGT
プール血清を15回同時に測定するとき、測定値のCV値は8%以内です。
・トリグリセライド
プール血清を15回同時に測定するとき、測定値のCV値は5%以内です。
・総コレステロール
プール血清を15回同時に測定するとき、測定値のCV値は5%以内です。
・HDL-コレステロール
プール血清を15回同時に測定するとき、測定値のCV値は10%以内です。

＜測定範囲＞
・GPT
10～1000 IU/L
・GOT
10～1000 IU/L
・GGT
10～1500 IU/L
・トリグリセライド
25～500 mg/dL
・総コレステロール
50～400 mg/dL
・HDL-コレステロール
10～150 mg/dL

2.相関性試験成績
・GPT
本法(Y)とJSCC勧告案準拠法(X)との相関を血清試料50例について行った結果、相関係数r＝0.972、回帰式Y＝1.000X+2.1の成績を得ました。
・GOT
本法(Y)とJSCC勧告案準拠法(X)との相関を血清試料50例について行った結果、相関係数r＝0.985、回帰式Y＝0.988X-7.5の成績を得ました。
・GGT
本法(Y)とJSCC標準化対応法(X)との相関を血清試料50例について行った結果、相関係数r＝0.999、回帰式Y＝1.006X+2.1の成績を得ました。
・トリグリセライド
本法(Y)とGPO・DAOS法(X)との相関を血清試料50例について行った結果、相関係数r＝0.999、回帰式Y＝1.038X+0.42の成績を得ました。
・総コレステロール
本法(Y)とCE-COD-POD法(X)との相関を血清試料55例について行った結果、相関係数r＝0.988、回帰式Y＝1.019X-3.1の成績を得ました。
・HDL-コレステロール
本法(Y)とHDL直接法(X)との相関を血清試料100例について行った結果、相関係数r＝0.983、回帰式Y＝0.992X+1.75の成績を得ました。

【使用上又は取扱い上の注意】

＜試薬について＞
1. 冷蔵(2～8℃)で保存してください。不適切な保存は試薬が有効期間内であっても、十分に性能を発揮できない場合があります。また、アルミパックは室温にもどしてから開封してください。室温にもどさずに開封した場合、吸湿等をおこし、異常値を示したり、性能を十分に発揮できない場合があります。
2. アルミパック包装から取り出した本品はすぐに使用してください。取り出した後、長時間放置すると異常値を示す原因となります。
3. その他、取り扱いの際には次のような点に注意してください。注意を怠ると異常値を示したり、測定不能の原因となります。
・一度使用した試験片は再度使用しないでください。
・本品の試薬部には、直接手を触れないでください。
・アルミパック包装の上から、試薬部分を強く押さえないでください。
・室内の揮発性薬品の汚染をさけてください。
・本品を折り曲げたり、湾曲させたりしないでください。特にアルミパック包装から試験片を取り出すときは、湾曲させないように注意してください。
・保存法が完全であれば、パッケージに記載されている期日まで使用できますが、期日内でも試薬部が変色、変形しているものは使用しないでください。
・石油またはガスを燃料とする暖房器具(ストーブ、ファンヒータ)、給湯器等の使用中に測定を行う場合は、十分な換気を行ってください。

＜専用測定機について＞
測光窓に汚れが付着すると、試験片からの反射光を正しく読み取ることができず正しい測定結果が得られません。専用測定機の取扱説明書にしたがって清掃してください。

＜廃棄について＞
1. 感染の恐れがある試料を測定した場合は測定した残りの試料、試料容器、試験片、ピペットチップを必ず適切な処理をした後、廃棄してください。廃棄の際には、環境省「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」にしたがって適切に処理してください。
2. 材質は次のとおりです。

試験片基材	ＰＥＴ
ラミネートフィルム	アルミ
試薬カード	ＡＢＳ樹脂

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法
冷蔵(2～8℃)で保存してください。
2. 有効期間
1年6ヶ月(有効期限はアルミパックおよびパッケージに記載)

【包装単位】

アルミパック	25枚(１箱中)
試薬カード(ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０専用)	1枚(１箱中)

【ITEM CODE】

専用測定機(ＳＰ－４４１０、ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)の補助入力機能(相関補正係数の入力、異常値マークの設定、パラメータの印字等)をご活用いただく際には、以下のITEM CODEが必要となります。
詳しくは、専用測定機(ＳＰ－４４１０、ＳＰ－４４２０、ＳＰ－４４３０)の取扱説明書にしたがって、操作を行ってください。

項目名	ITEM CODE
GPT	32
GOT	31
GGT	01
トリグリセライド	16
総コレステロール	24
HDL-コレステロール	04

＊【主要文献】

1. 太田哲朗ほか：臨床病理、ＸＸⅦ、総会号、544(1979)
2. Gabor Szasz: Clin.Chem.,15,124-136(1969)
3. Marian Orlowski,Alton Meister: Biochim Biophys.Acta,73, 679-681(1963)
4. Spayd,R.W.,Bruschi,B.,et al.: Clin.Chem.,24,1343-1350 (1978)
5. 福井　巌：日本臨床　43巻　秋期臨時増刊号　340～346(1985)
6. 松宮和人：Medical Technology Vol.11 No.6 495～501(1982)
7. 松宮和人：Medical Technology Vol.11 No.12 1201～1206(1983)
8. 臨床検査法提要　改訂第32版(2005)
9. 動脈硬化性疾患予防ガイドライン(2007年版)

【問い合わせ先】

アークレイ お客様相談室
滋賀県甲賀市甲南町柑子1480
TEL 0120-103-400
(平日 8:30～18:00、土曜日 8:30～12:00)

C772-0142J

販売元
アークレイ株式会社
京都市南区東九条西明田町57

製造販売元
株式会社 アークレイ ファクトリー
滋賀県甲賀市甲南町柑子1480